

まらり 看護学生

2021年 **10** **11** 月号



02・03 | 看護の現場より — 新山 瑞季さん (尼崎医療生協病院)

04・05 | 近畿看護学生ゼミナール Egg Nurse Step (ENS) ⇒ B オンライン開催

06 | 私の出会った患者さん — 丸市 夏渚さん (神戸協同病院)

07 | ほっとStation

08 | 看護学生の
おすすめの本①

看護の現場より

看護学生みなさんに、私たちが日々看護を
実践している現場での奮闘ぶりや、看護に
対する熱い思いをシリーズで紹介します。

コロナに負けない 私たち

尼崎医療生協病院 3階西(コロナ)病棟
新山 瑞季さん



■ コロナ病棟立ち上げ

尼崎医療生協病院では、2021年2月からコロナ病棟の運営を開始しています。2020年12月にクラスターが発生し、クラスターを経験した看護師や自分自身がコロナに罹患した看護師が、様々な想いを抱えてコロナ病棟で働きたいと手上げし、総勢28名でコロナ病棟が立ち上がりました。

コロナ病棟を運営するにあたって、スタッフ全員で病棟基準を決め、PPEの研修やコロナの病態や治療などについて学び、現在コロナ患者様の看護に当たっています。



研修の様子

コロナ病棟の運営を開始した時は、軽症～中等症Iまでの患者様を主に受け入れることとなっていました。市中での感染が広がり、現在は中等症II(酸素投与が必要とされる状態)の患者様も受け入れをしています。自立の患者様から介護を要する患者様まで幅広い患者層の方が入院されています。

■ コロナ病棟での看護の実際

毎朝、手指消毒・PPE着脱の練習から始まります。そして、看護師や医師でのカンファレンスで情報共有を行い、一日がスタートします。カンファレンスでは、患者様の病状だけでなく患者様や家族様の抱えている想いなどを情報共有しています。

尼崎医療生協病院では、家族様の不安な気持ちに寄り添うため看護師や医師から、毎日患者様の状態を家族様に電話したり、オンライン面会をこまめに行うなど対応をしています。また病状が厳しく看取りが間近となった場合は、家族様が患者様の側に付き添えるように、コロナ病棟に関わるスタッフで相談した結果、窓越しで面会を行うなども行っています。

■ やりがい

コロナ陽性の患者様と家族様は会いたくても会えない状況にいます。そのため、不安や寂しさがこれまで以上に大きいように感じ、それを少しでも軽減できるのは看護師だと思っています。そのため、看護師が架け



明日から
頑張ろう!!

一緒に働く仲間(決起集会にて)

橋となって少しでも不安や寂しさに寄り添い、ケアしていきたいと思い、私はコロナ病棟で働くことに手上げしました。

コロナ病棟で働くことは、常に自分自身も感染してしまう可能性もあるため不安もありますが、患者様や家族様から「この病院でよかった、ありがとう」と言われることが多くあり、コロナ病棟で働いてよかったと思っています。

■ 看護学生のみなさんへ

看護師の仕事は、しんどくて辛いこともあります、患者様の笑顔を見ると元気になったり、患者様からの声掛けで私自身が救われたりと、看護師になったことで様々な経験ができました。私は看護師になり3年目ですが、この看護師の仕事が大好きです。



PPE着脱練習

コロナ禍であり思い描いていた学生生活とは違い戸惑いや不安もあると思いますが、学生生活の学びは看護師になってからも、自身の強みになると思うので、周りの友達と助け合いながら頑張ってくださいね。



「PPEの着脱手順」すぐに見れるところに掲示している



病棟風景



「3西通信」を毎月発行し、他部署に配布している

近畿看護学生ゼミナール Egg Nurse Step(ENS) ⇒ B オンライン開催

8月21日(土)「近畿看護学生ゼミナールEgg Nurse Step(ENS)⇒B」が初めてオンラインで開催されました。全体で学生職員含めて約170名参加で、兵庫から学生17名、職員10名が参加しました。

ENSとは、ナースの卵が、Bigになっていく、Beingなどの意味が込められています。今年は、「いのちに寄り添う看護」をテーマに学び、考える機会となりました。

私が看護学生の時にはENSに参加したことはありませんでしたが、2年目看護師になり職員として初めて参加させていただき、看護学生と一緒に学びを深めることができました。

最初にコロナ禍の病院や地域の現状についてのDVDを視聴。DVDの内容は日々テレビなどで放送されているニュースだけではわからない、医療現場の逼迫した現状で、コロナ病棟で働く医療者の思いや経営状況、介護施設でコロナ肺炎になっているにも関わらず入院できない利用者の事例についてなどでした。また、地域の現状では、コロナ禍で生活困窮などが理由で医療を受けられない方がおられること、そんな方々へ民医連が生活相談や食料支援を行っている報告もありました。コロナの感染が拡大したことで、日本の医療を含めた社会全体で多くの問題が浮かびあがっています。少しずつでも改善できるよう政治にも働きかけていくことが重要であると学びました。

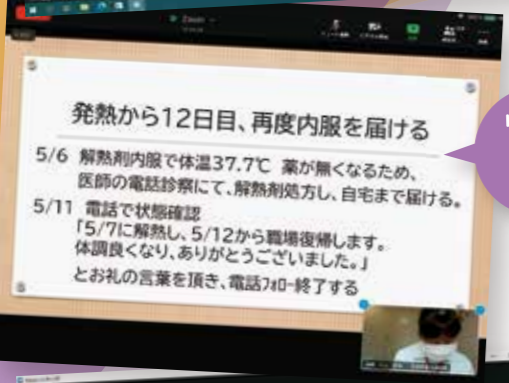
その後は、各県の事業所からのリレートークがありました。コロナ病棟で働く看護師の生の声や外来での取り組み、コロナ病棟への看護師支援、感染対策に留意しながら患者様へ最善の看護を提供できるような工夫、訪問看護の

事例、子どもの貧困などについての報告がありました。事例を通して看護実践について学ぶことができました。コロナ禍であったとしても患者様や家族様の心に寄り添い看護を行うことは変わらないという言葉が心に残りました。

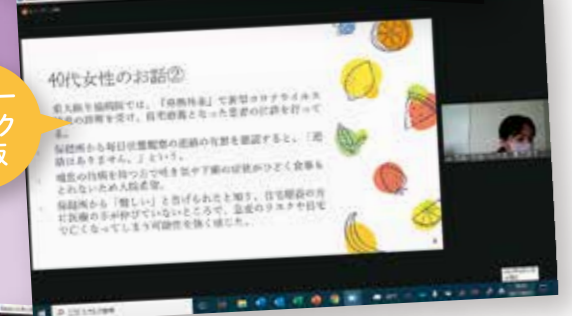
後半は、グループに別れてディスカッションを行いました。DVDやリレートークを聞いての感想や最近の学校生活について意見交換をしました。看護学生からは、「コロナ禍の中、医療現場で働く看護師の生の声を聞き、より一層感染対策の重要性を感じた。」「医療を受けられない状況があることに驚いた。」などの感想がありました。また、最近の学校生活については、「実習に行けず事例展開しかしていないので病態は深められたが、技術やコミュニケーションが不安。」「9月から実習に行けるので事前学習を頑張っている。」などの発言がありました。

このENSは看護学生への企画でしたが、私自身がコロナ禍の医療の現状を学び、いのちに寄り添う看護について改めて考える良い機会になりました。社会と医療の情勢を学び、知識と視野が広がりました。また、意見交換では、学生の頃感じていた実習などへの想いや不安だったことを思い出し、アドバイスをしました。コロナ禍で頑張っている学生さんの発言を聞き、私も医療現場で頑張ろうと思いました。

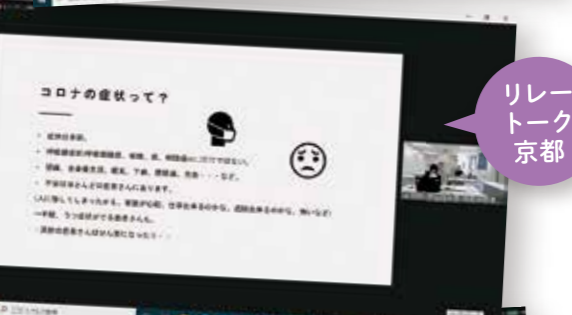
(東神戸病院 北2階一般急性期病棟 高見 美晴)



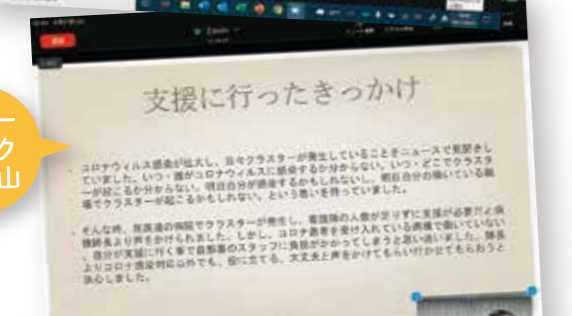
リレートーク 兵庫



リレートーク 大阪



リレートーク 京都



リレートーク 和歌山



司会 たちからい 師長



ストレッチ



グループディスカッション



グループディスカッション



グループ発表



閉会 あいさつ 藤井師長



私の出会った患者さん



Aさんと写真を撮りました

神戸協同病院
コロナ病棟
丸市 夏渚さん



【患者さん紹介】

夫/90歳代/コロナ肺炎/ADL全介助(もともと自立)
妻/90歳代/コロナ感染症/ADL一部介助(ポータブルトイレ自立)

- サービス付き高齢者住宅で夫婦2人暮らし
- キーパーソンは姪御さん

Aさんご夫婦は、新型コロナウイルス感染症に罹患し、当院に入院してきました。夫婦とも認知症があり、子どもはおらず70年以上2人で過ごされてきました。そんなAさんご夫婦のために私たちができることは何か、チームで何度も話し合いました。2人以上の病室は、基本は性別で部屋を分けていますが、夫婦で離れてしまうことへのストレス緩和を優先的に考慮し、夫婦同室としました。

入院中、妻が発熱によりぐったりしていると、夫がベッドサイドへ駆け寄ってスカーフを首にかけたり、布団を肩までかけたりしていました。また、夫がぐったりしているときは妻が声をかけるなど、とても仲睦まじい夫婦関係でした。

コロナウイルスは恐ろしく、感染後免疫反応が過剰に働き、状態が急激に悪化することもあります。もともと他の病気を抱えていた妻の呼吸状態が悪化することを懸念していましたが、治療により改善傾向でした。しかし、これまで妻の身の回りのことをしてきた夫の呼吸状態が急激に悪化してしまいました。時折息が苦しく大声を上げ、認知症により酸素マスクの必要性が分からず何度もマスクを外すことがありました。夫が酸素マスクを外していても、予防着の装着に時間がかかりすぐに訪室できないこともあり、夫の呼吸状態がどんどん悪化していきました。

姪御さんとの連絡を密に行い、夫の苦痛を緩和するためにはどうしたらいいか十分に検討し、持続的に鎮静をかけることで苦痛緩和を図るという結果になりました。それから夫は終日、声をかけても眠ったままの状態となりました。

妻は、初めは苦しむ姿がなくなった夫を見て「ずっと寝てるね」と笑って話されました。認知症によりすぐに忘れてしまうことがありましたが、眠ったままの異変に気づき、「夫が目を開けてくれない」と、夫の姿を見るたびに涙を流されました。

治療は続きましたが、夫の呼吸状態の改善は難しく、姪御さんと相談の上、当院で看取る方向となりました。妻は、徐々に悪化していく夫の姿を見て泣きじゃくる時間が多くなってきました。チーム内からも“同室のままではAさん(妻)にとって精神的な負担が大きくなる一方ではないか”という意見も出ました。この状況を姪御さんに報告し、親族間でも話し合ってもらいました。姪御さんからは、最後まで一緒にいさせてほしいと返答がありました。妻も、夫が寝ているという理解から、悪化しているという受け止め方が増え、「長年一緒にいたので最後まで傍にいたい」との返答がありました。結果、チーム内でも夫が悪くなる姿を見せないようにする看護ではなく、最後まで夫の傍にいて受け止められる

ように支えていく看護にしよう、という方針に決まりました。

夫の死を受け入れることは容易ではありませんでしたが、辛いときは時間いっぱい精神的なサポートを行いました。チーム内では、常にAさんご夫婦に何が出来るか意見交換をしながら、看取りの援助を行うこと、また予期悲嘆への援助を行うことなど話し合いました。

ベッド周囲しか動けない妻が少しでも夫に寄り添えるよう、ベッドの間隔を空けず隣同士にするなど環境調整もしました。傍に寄り添うことができて、妻は涙を流し顔に触れては「お父ちゃん、私をおいて逝かんといて。一人にせんとって。」という発言が毎日ありました。どれだけ忘れることがあっても夫の様子をみて涙を流し続けました。私たちはできる限り傍につき添い、姪御さんにもAさんご夫婦の状況を伝えました。

そんな中、夫の誕生日に姪御さんはじめ親族の方からお手紙が届きました。許可をもらった上で、手紙を妻が嬉しそうに読んでいる姿や夫の様子を撮影して渡すと、とても喜ばれました。

夫の状態悪化が進行し、妻の悲嘆的な訴えもさらに強くなったため、面会が禁止の中でも親族のみなさんと話すことを実現するための対策を再度話し合いました。そして、iPadを使用してリモート面会を実現することができました。

夫のA氏が亡くなられた時、身体を拭く際には妻のAさんも一緒に拭いてもらうことができ、最後はAさんご夫婦で写真撮影もしました。写真は写真立てに入れ、Aさんと姪御さんに渡しました。Aさんからは涙もありましたが、その瞬間は笑顔を見ることができました。

その後、家族からの手紙や写真を見て少しずつ夫の死を受け入れ、現在は一般病棟に移られ自宅に戻るためにリハビリを頑張っています。

Aさんご夫婦のように、コロナ病棟で制限される環境下でもできる看護はたくさんあります。諦めるのではなく、実現のためにはどうしたらいいかを考えることが大切だと改めて気づくことができました。一人ではなく、チーム内で何度もカンファレンスや意見交換を行い実現できたことはたくさんあります。

学生のみなさん、コロナの影響により病院実習は少なく制限の多い日々だと思います。不安や悩みも多いと思いますが、諦めずに解決のためにどうすべきか、仲間や周りの人と一緒に考え乗り越えていきましょう。私たちも応援しています。



読者の声



9月後半から初めて病院実習が始まります。ドキドキですが、予定通り無事行きたいと思います。(大学生・おかゆ)

ワクワクとドキドキの始まりですね！予定通り実習が終了できるように祈っています(^^)／

医療ワークショップの記事がとても良かったです。まだ1回生で実習もほとんどありませんが、知識はがんばってつけます!!(大学生・うさびょん)

今回の号では、「おすすめの本のコーナー」が始まりました！今後も看護に役立つ本なども紹介しますのでぜひ参考にしてみてください！

これから実習が始まります。2回生では行けなくて今ドキドキしていますが、がんばってきます!!(大学生・藻)

健康第一で、元気に楽しみながら頑張ってきてくださいね〜♪

実習おつかれさまです！食欲の秋ということで何かおいしいものを食べて、少しでもホックリできる秋になりますように★

実習に1ヶ月半参加しているうちにいつのまにか夏が終ってしまいました…。(大学院生・おもち)

うまくいく事例もあれば、納得いかない事例もあるとは思いますが、その経験が次に生かされるそんな看護師になれるといいですね！

医療ワークショップで行われた事例について私も考えてみました。患者がしたいことをするという患者の尊厳を守ること、患者が家に帰って約束を守れることを天秤にかけて考えることはとても難しいと感じました。医師の意見を見て、自分の考え方が広がりました。これからたくさんの事例を考える機会があると思うので参考にしたいです。(専門学生)

来月から初めての臨地実習が始まります。何か1つでも得られるよう精一杯頑張りたいと思います。(専門学生・ピーなっつ)

その「学びたい!!」と思う姿勢があれば大丈夫！きっと良き経験となります!!応援しています(^^)／



8つのまちがい

[問題] 上の絵と下の絵では8つのまちがいがあります!どこでしょう?

同封の返信ハガキに答えを書いて応募してください。応募いただいた正解者に抽選で図書カードをプレゼント! 11月10日(水)



必着。当選の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

←前回のまちがいがしごの答え

編集後記

学生みなさん、今年はどのような秋を過ごされていますか？私はカメラが趣味なのですが、撮りに行ける機会がなく悲しんでいたら、なんと「今月号の表紙の写真のネタがない！」ならば看護師さんたちの笑顔を撮ろうではないか!!という事で撮ってまいりました。少しでもこの表紙の笑顔を見てみなさんにも元気になってもらえればと思います。実習でしんどいこともあるかと思いますがぜひ笑顔を忘れず日々過ごしてくださいね。笑顔になったエピソードなどあれば、ぜひお聞かせください!(K)

看護学生のおすすめの本 ①



看護学生の皆さんにこの秋おすすめの本を聞きました。
読書の秋を楽しんでください♪

リフレッシュに!! 秋の夜長の友に!!

「夢をかなえるゾウ」

水野敬也・飛鳥新社

H・Sさん(専門3年生)

自分の夢の為に日々小さな積み重ねを行う大切さやいろんなことに感謝して生きていくことの大切さを学ぶことができます。

「また同じ夢を見ていた」

住野よる・双葉社

J・Oさん(専門1年生)

主人公が3人の女性と関わっていく中で成長していくお話。最後に3人の女性がいったい誰なのかに驚いた。

「看護師・看護学生のためのなぜ?どうして?シリーズ」

医療情報科学研究所(編)・メディックメディア

Y・Tさん(大学3年生)

実習が近くなり、飽きずに復習できる本を読みたいと思いつけました。

分かりやすく物語を読んでいるようにすらすら読みながら復習できます。下に過去問題もついているのでさらにいいと思いました。

「のほほん 解剖生理学」

玉先生、大和田潔・永岡書店

A・Kさん(専門2年生)

絵が沢山あって面白い内容で分かりやすくまとめられているので、ちょっとした時間でもゆる〜く見ることができています。解剖生理の基本的なことを今のうちにあたまに入れておこうと読み始めています。

「夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く」

汐見夏衛・集英社

S・Fさん(専門2年生)

勉強になったことは、実際に口に出している言葉が本当の言葉かどうかは分からないということです。汐見夏衛さんの本は表紙が綺麗な感じが多いのでおすすめです。

私のおすすめの参考書

「これならわかる! 術前・術後看護ケア」

中島恵美子、伊藤有美(監修)・ナツメ社

E・Aさん(専門3年生)

「看護計画が立てられない…どうしよう…」私がこの参考書と出会ったきっかけは、急性期実習の事前準備をしている時でした。

急性期の合併症として多い術後出血の標準看護計画を作成しようと様々な看護過程の参考書から探したのですが見つからず、慌てて本屋に駆け込み周手術期に関する参考書を探しました。「これならわかる!」その時目に止まったのが、このフレーズでした。

私みたいな白黒で字ばかり書いてある参考書は読む気がしないという人にぴったりな、鮮やかな文字とイラスト入りなので読みたい意欲を掻き立ててくれます。さらに、専門用語を使わず説明されている部分も多いため、まだ医療用語を覚えきれていない1年生の看護学生でも理解しやすいと思います。簡潔に要点を抑えながら急性期の流れに沿って情報収集から看護ケアまで載っているため、術後出血の標準看護計画も無事作成することができました。このナツメ社の「これならわかる!」はシリーズ化されており、終末期実習では同シリーズの「はじめての緩和ケア」も大変役に立ちました!